

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

経営者自ら倫理と権力のバランスをとる 丹羽 宇一郎 (伊藤忠商事会長)

1. 先進国では経済の仕組みや、企業統治のルールが変わろうとしている。苦境に陥った企業では、経営者が権力のワナにおぼれたケースが目立っている。米ゼネラル・モーターズ (GM) が、経営破綻に追い込まれたのもこのためではないだろうか。経営陣の「自動車は国家なり」という驕りが社内に浸透し、新規事業や技術投資の軽視につながったのではないかと。儲かっている事業でいつまでも儲けられると過信し、次の投資への関心が薄らいだように思える。
2. 経営者というのは、企業の中では王様を超えるほどの権力を握っている。小さな世界の独裁者と言っていい。経営者は、社員による選挙で選ばれたわけではないし、企業の中では、上意下達のコミュニケーションが多い。外からは民主主義的に見えているかもしれないが、実際に社内は仮面をかぶった民主主義に覆われていることを経営者は自覚すべきだ。絶大な権力を行使できることが、時としてトップの目を曇らせてしまう。
3. まず、経営者の独裁を排除しなければならない。経営者の権力と倫理は相容れないものだ。内部統制制度や会計ルールへの順守などで、様々な歯止めをかけようとしている。だが、それらには限界がある。だからこそ、経営者は自分で心して、両者のバランスをとらなければならない。
4. 人間が働いている以上、不祥事は完全には根絶できない。企業が大きくなるほど、経営者に集まる権力も増大する。そうして経営者が権力におぼれれば、社員も緩み不祥事がまた増える。つまり、煎じ詰めれば、すべてが経営者に戻ってくる。これからは、経営者が倫理と権力のバランスを取ることがさらに重要になるだろう。

(参考:「日経ビジネス」2009年9月21日号)

幹部への活きた言葉

人間力のある人がリーダーになっていく

佐々木 常夫 (東レ経営研究所社長)

1. 「礼儀正しさに勝る攻撃力はない」。この言葉は「ビジネスマンの父より息子への 30 通の手紙」(G. キングスレイワード) の一節である。「人に会ったら、きちんとあいさつする」「人に世話になったら、すぐお礼を言う」など礼儀正しい対応をすると相手から好感を持たれて仕事がスムーズに進むということだ。私は「礼儀正しさだけで東レの役員になれる」と部下に言ってきた。役員とはリーダーであるが、私はリーダーというのは幼稚園のときに教わったことをきちんとできる人だと思っている。
2. 幼稚園のときにどんなことを教わったのか。「人に会ったらあいさつしなさい」「みんなと仲良く遊びなさい」「仲間外れをしてはいけません」「ウソをついてはいけません」「間違ったことをしたら、勇気を持ってごめんなさいと言いなさい」。私たちは、このような、人としてなすべき基本的なことを幼稚園でたくさん学んだはずだ。その基本的なことをきちんとできる人が「人間力がある人」であり、人に信頼されてリーダーになっていく。

(参考:「週刊東洋経済」:2009年9月12号)

経営者のための経済学

日本を左右する「2012年問題」

1. 数年来、日本では、「2007年問題」が話題になってきた。「2007年問題」とは、約680万人にのぼる団塊の世代が60歳定年を迎え、日本が急速な労働力不足状態に陥るのではないかという懸念であった。しかし、実際には、2007年になっても、労働力不足は大きな問題にはならなかった。問題は、2012年以降である。2012年を過ぎると、団塊の世代の多くが真の意味で年金生活者になり始める。
2. 少なくとも向こう約20年、「団塊の世代」が人口構成上の「こぶ」として存在することは避けられない。この「こぶ」は、過去の日本経済の主役であり続けた。これからの10年も、この「こぶ」が日本の金融市場や社会に大きな影響を与え続ける公算が大きい。こうした「こぶ」の経済に与える影響を正確に測り、その悪影響を極力避けることが、日本の持続的成長を担保する重要な施策となる。

(参考:「野村週報」2009年10月26日号)

古典に学ぶ

生命力の純化

「そもそも偉人と言われるほどの人間は、何よりも、偉大な生命力を持った人でなくてはならぬはず。しかもそれが、真に偉人と呼ばれるには、その生命力が、ことごとく純化し浄化せられねばならぬのです。ですから生命力の大きさ、力強さというものを持たない人間は、真に偉大な人格を築き上げることはできないわけです」

(参考:森信三「修身教授録抄」:致知出版社)